

# 序

人工呼吸管理は、“やろうとおもえば、だれにでもできる”。電源を入れて、ダイヤルをくるくる回して、デジタル数値を動かし、確認ボタン“ピッ”で、呼吸器が“動かせる”。

そこが面白さであり、恐ろしさでもある。漫然とした、根拠に基づかない、適切でない設定、評価、適応や中止は、患者の生命予後を含めた安全性に直結する。われわれ医療従事者は、この、“恐ろしさ”を認識し、より質や安全性の高い人工呼吸管理を行うことを強く意識しなければならない。

良い人工呼吸管理を提供することは、容易ではない。ベッドサイドにおいて、刻一刻と変わりうる患者を目の前にして、指針として参照可能なハンディな書籍があればいいなと長年感じてきた。コレハ、というものに出会えなかったこともあり、やむを得ず自ら作成に乗り出したのが本書である。

内容は見やすさ、参照のしやすさを優先し、困ったときにすぐにひもとけるハンドブック形式とした。また、チェックリストの活用による安全性向上をめざし、現場で利用可能な形式での提示を行った。覚えきれないが頻繁に使用する公式や数式も、できるだけちりばめた。

筆者が研修医であった二十数年前を思い出し、“あのときこんな本があればよかった”と思える書籍づくりを目指したつもりである。ただし、初版にありがちなぎこちなさや洗練の欠如があるかもしれない。作成の過程で、一部エビデンスに追い越されているかもしれない。今後使われていく中で問題点が改善され、より研ぎすまされた内容に改変されうる状況が生まれれば、理想的だと感じている。

2014年盛夏

洛北の空に沸き上がる夏の雲を眺めながら

志馬伸朗